

令和3年度



東明小だより

第5号

令和3年7月20日(火)

「どきどき、わくわく」の夏休みに ～子どもにとっての宝物～

校長 奥村 哲也

登下校の様子を見守っていると、子どもたちがいろいろなプレゼントをくれます。ヒメジョオンやシロツメグサで作った花束、チガヤの穂や名前の分からないたくさんの葉っぱで作った草束、時にはどこで拾ってきたのか「松ぼっくり」をくれたこともありました。登下校途中の道草は褒められたものではありませんが、子どもたちにとって通学路の道端は「宝の山」なようです。

ある昼休み、低学年の児童が「校長先生、いいものをあげるから手を出して。」というので手を出したところ、手の平に鈍色のツチガエルを載せてくれました。その子のもう片方の手が握りしめられたままなので、「こっちにもいるの？」と聞くと、そっと開いて「こっちは、緑色のカエル。すごいでしょ。こっちは宝物だからあげない。」とのこと。アマガエルはプレゼントしてもらえませんでした。



昨年度より「新学習指導要領」が全面実施となりました。そのキーワードの一つに「主体的な学び」があります。「主体的な学び」には好奇心が欠かせません。「なんだろう。面白そうだな。」という好奇心が「やってみよう。調べてみよう。」という主体的な学びにつながるからです。

「好奇心がくすぐられた時には脳が活性化し、普段より学習効果が高まる。」という研究報告もあります。学校では、授業の導入で教材への興味・関心を高め、「なぜだろう。やってみたいな。」という課題意識につなぐ工夫を続けているところです。

道端の草花やアマガエルが宝物である今だからこそ、好奇心をもっともっと育てていきたいと思います。さあ、いよいよ夏休み。子どもたちの好奇心をくすぐる場は、身近にもたくさんあることでしょう。安全には十分気を付けながら、子どもたちにとって「どきどき、わくわく」の夏休みになることを願っています。